

株式会社広洋電子

広島県広島市 | 電子基板・ハード・ソフトウェア設計&製造 | www.koyo-densi.co.jp

IoT 機器含めソフトウェア組み込み需要を見据え医療機器産業へ

株式会社広洋電子は電子機器の設計、開発、製造を手がける。要望から設計書を起こし、ソフトウェアからハードウェアの開発製造まで一貫した体制でマツダをはじめとする自動車産業に事業の主軸を置く。要望や素案から仕様を固めるプロセスに定評があり、それを営業力に取引先を増やしている。真似た時にはもう古い—。車載制御の技術で中国勢が追いかける同社。最近では医療機器メーカー向けの組込みソフトウェア開発でも実績を上げてきた。今後の医療機器関連での事業成長を狙い、2018年に医療機器製造業を取得。制御装置でハードとソフトをトータルで提案できる技術力で新たな展開を図る。医療機器産業への本格参入について代表取締役の平井将宗さんに話を聞いた。

診断系医療機器を突破口に

血液検査や尿検査を始め、生体分析装置には多彩なセンサーが使われる。こうした体外診断用医療機器(IVD)に平井さんは関心がある。そこには、これまで手がけてきた診断系医療機器のソフトウェア開発や医療機器の動作異常を調べるモニター開発で実績を積んできたことが背景にある。「回路設計などのハードウェア開発から手がけたい」と、培った車載技術で医療分野での領域拡大を狙う。

土地柄、同社はマツダ及びマツダのサプライヤー向けの電子機器、エンジンを開発するための電子制御、試作品開発、計測試験装置の受託開発が事業の大半を占めてきた。OEM では顧客のブランドで完成品を納める。

特に同社が強みとする車の性能検査はエンジン制御やドアの開閉、ハンドルの角度を測るものなど実にさまざま。顧客から「ハンドルの角度を測りたい」という要望があれば、それに見合ったセンサーを選び、マイコンのプログラミングから用途にあった筐体設計など、一括して請け負う。提案型の受託開発であるため、これまでにない検査方法など新たな特許技術が生まれることも珍しくない。同社ではそれをブラックボックス化せず、受託開発中に生まれた特許技術は顧客に属する姿勢を徹底するから信頼関係が育つ。自社の技術力が顧客の競争力につながることこそ広洋電子の強みと言える。



組み込みソフトウェアはリアルタイム性が重視されるためインターネットを介さず製品単体で動かすことが多い。医療の世界では IoT への流れが生まれていることから、同社も対応すべく新たな技術を開発中だ。

グローバルに技術力を強化

「日本の技術力は失われつつある。先人たちによる技術革新で、技術力を高めてきた歴史を守っていきたい。それを広島で継続できたら」という思いが平井さんにはある。

こうした同社の車載技術は、中国企業からの引き合いも多い。中国は国を上げて技術力の品質向上を図っているためか、検査機器への関心が高まっているという。また、同社の計測技術を真似ようと試みる企業はあるものの、使いやすさを考慮した設計に苦戦する傾向があるそうだ。「測ることさえできれば良い」という製品を作ってしまうと、少しでも仕様と異なる測り方をすると正しくない値が出てしまう。「計測器が現場でどう使われるかを想定した設計ができるところに日本の技術の凄みがある」と平井さん。

同社が拠点を置くタイでは、その技術者のほとんどがタイ人。本社の広島にも 2 名のタイ人を直接雇用、タイ拠点より 1 名のタイ人が出向し、日本の技術を受け継ぐべく修行中だという。「日本人だけで技術革新を担っていく時代ではない」と平井さん。「お客様が我々に望むのはいいモノをつくること。それを喜んでいただけることがモチベーションになる」と、国内外で技術者の育成に力を注ぐ。

(2018年12月28日取材)

■会社概要 ■

社名 株式会社広洋電子
代表者 代表取締役 平井 将宗(まさむね)
住所 広島県広島市西区三滝町 16-5
TEL: 082-239-3969
設立 1980年9月
URL www.koyo-densi.co.jp